

第 6 回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

開催日時	令和 2 年 2 月 3 日 (月) 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで		
開催場所	茅野市役所 8 階大ホール		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容 (概要)		
	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 会議事項</p>		
事務局	<p>第 2 次茅野市地域創生総合戦略 (素案) の抜本的な見直しについて (資料 14-1、14-2、14-3)</p> <p>————— 説明 —————</p>		
委員	<p>説明では、基本目標 3 の数値目標は人口ビジョンから数値が出ているとのことだが、自然増減ではもちろんマイナスになるのは分かるが、茅野市には大きな企業も来ており条件は他市町村よりも恵まれている。社会増減に関しては増を目指せるのではないかと思う。なぜ増えないのか、この目標を見る限りではわからない。説明していただきたい。</p>		
事務局	<p>人口ビジョンの茅野市の人口推計のうち、自然増減と社会増減を合わせた人口増減全体の数字になっている。再度見直しをさせていただく。</p>		
市長	<p>数字の算出については、なお検討させていただく。数字を算出した背景には色々あると思うが、中央病院に勤める先生でも原村に住まれている方は非常に多い。ディスコさんが出来てもすべての方が茅野に住むというわけではないというのは考慮しなければならない。茅野市に住んでもらうためには住宅の提供をどう考えるか、ということも考えなければならない。茅野市ほとんどが農業振興地域になっていて、工業誘致や宅地の造成ができる場所は、面積の割には多くない。そうしたことも含めて総合的に考えていかなければいけないし、茅野市周辺のことも含めて考えなければいけない。それが悪いことではなく、この地域一帯の活力の向上につながっている。そうした面も考えていければ良いのでは。</p>		
委員	<p>非常に良くなった。ただ、基本目標 5 の中で行政サービスの満足度を 50%にするという数値目標があるが、現状を伺いたい。もっと高い目標を掲げてても良いのではないかと思う。</p>		
事務局	<p>現状は、43%程度。目標値についてはご意見をもとに再度検討する。</p>		
委員	<p>もう一点。暮らしやすいまちをつくるにあたって、様々な伝統的行事が各地区にある。そういった古いことを大切にす姿勢を文章だけでも入れてもら</p>		

	<p>うことで、新しい人たちが移住してきても行事に入り込みやすくなるのではないかと思う。検討いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>改めての質問になるが、若者のイメージはどこに住んでいる、どの年代なのか、というのは具体的にあるか。</p>
<p>市長</p>	<p>おそらく現役世代ということ。イメージ的には 30、40 代。そういう人たちが残ってくれるまち、というイメージ。場合によっては現役世代、ということにもなるが、イメージとしてはそのくらい。</p>
<p>委員</p>	<p>私の考えは少しずれてしまうかもしれないが、将来にわたって持続可能なまち、そこへ持っていくための計画ということであったので、私はもっと若い世代をイメージしていた。基本目標 2 に、15～18 歳の方が将来は茅野市に帰ってきたいと思うか、という目標も掲げられているが、市長がおっしゃるとおり一番コアなのは 30 代 40 代だとしても、将来にわたって持続可能なまち、ということを考えれば、私個人としてはまさしくこの 15 歳～18 歳がターゲットになるのではないかと思う。この年代の方々はまだ行政とは距離が遠いと思うが、欲を言えば学校の授業でこの計画を見たときに、この世代の皆さんが将来このまちに帰ってこようと思えるような、もしくはもっと言うと小学生、中学生の皆さんも帰ってきたいと思えるような魅力を出しても良いのではないかと。私はそのくらい踏み込んで良いのではないかと思う。あくまでも茅野市民に見せるための計画とするのであれば、30 代、40 代のコアになる世代や、もっと若い世代が見てもこのまちは良いなと思えるような魅力ある計画であってほしい。この計画の順番で見ると、外から来る人に対してはしっかりと取り組んでいるように見えるが、今住んでいる人たちに対しての取組は見えづらい。確かに中までしっかりと読んでいけば書いてあるが、外の人来てください、外の人待っています、というのが前のページにあるのを見ると、もし私が生粋の茅野市民だったとして、これを見て自分のまちへの郷土愛が感じられるかと言われると疑問。やはり今住んでいる、これから将来市を担ってほしいと思う子どもたち、まさに若者たちに夢を描いてもらえる計画としての見せ方が他にもあるのではないかと。各市町村もそれぞれ外から人を引っ張ってこようと頑張っている中で、先ほどの人口の問題ではないが、ないところから人を引っ張ってくるよりも、今いる人をいかに減らさず、いずれ戻ってきてもらうかを考えたほうが良いのではないかと。中身は変わらないとしても、優先順位とすれば今いる人をつなぎとめるところに軸足を置くような見せ方を考えてほしい。今いる人、またはその子ども達が夢をもって帰ってこられるような見せ方もあるのではないかと。</p>
<p>市長</p>	<p>世代のとらえ方だが、もちろん 15 歳～18 歳の中学生、高校生はターゲットとして入っている。ただ、市の計画ということで幅を広く見ている部分もある。若い人たちに選んでもらいたいという最初のきっかけは、15 歳～18 歳の方に対するアンケート調査で茅野に残りたい、という人たちが極端に少なくなってしまうという危機感。見せ方については、ご指摘のとおり検討の余地があると思う。若者に「選ばれるまち」という表現がはたしてどうなのか、という思いもあった。ご年配の方をないがしろにしているのでは、と反発をくらすのではないかとという心配もあり、そこについてはかなり議論を重ねた。ただ、あまりご年配の方ばかりに目を向けすぎてもよろしくない。そ</p>

	<p>このバランスは難しいと感じている。現状の茅野市のまちづくりは、数多くあるご年配の方からの要望に応じていく、それが行政の仕事ということになっているが、それをやり続けるといづれ破たんする。それを方向転換したい、というニュアンスも入っている。</p>
<p>委員</p>	<p>今ご指摘いただいたことは、自分も関わっている茅野市こども・家庭応援計画（どんぐりプラン）の中で、CHUKO らんどチノチノを作ったり、あるいは私は関わっていないが、永明小学校と中学校の一体とした学校づくりをしたり、コミュニティスクールを作ったり、ということで取り組んでいる。教育現場については別の計画で茅野市を愛してもらえる子ども、あるいは茅野市で何か成し遂げたという思い出を作ることで、帰ってきたいと思えるようなまちを作っていきたいと取り組んでおり、この総合戦略とは少し性格が違うのだろうと思っている。帰ってきたいと思えるようなまちづくりは、教育の段階から強くやっていかなければならないということは強く理解している。</p>
<p>委員</p>	<p>20代、30代の方が茅野市を選ぶにあたって、この計画の中にこういうことが載っていて茅野市の魅力はこういうところだから、では茅野市に相談してみよう、となればよい。その茅野市の魅力の部分をもう少し分かりやすく見せてほしい。一方、知り合いの40代の方で、茅野市に家を買ったが、御柱があつて大変なので家売って、塩尻に買いなおしたという事例があった。すべての方の希望を網羅できるわけではないが、そういった人たちも踏まえて「選ばれるまち」にしよう、と思つたらもっとぶつとんだことが施策の中に書かれていて、他の自治体と全然違う、ということが感じ取れないと、どこでもあるような同じことが書かれているなど受け取られてしまう。非常にわかりやすいし、私の世代が見れば納得できるが、もっと若い世代を選ぶ、という目線で見るときには、マッチングしているのか疑問。</p>
<p>委員</p>	<p>若者、現役世代をどこまで前に出すか、というのは議論だと思うが、内容はすごく分かりやすいと思う。現状茅野市の観光客の年齢は毎年上がってきている。もしこの基本目標のところ現役世代、という目線を入れていくのであれば、観光地域としてのプロモーションの中にも世代をしっかりと反映していかないといけないのではないかと感じる。例えば、別荘地を利用している方はほとんどがご年配の方。では、現役世代の方に使っていただくためにはどうすればよいのか、現役世代の方に訪れていただくためにはどうすればよいのか、というところが、表現するとまた問題があるかとは思いますが、あまり表現できていないのではないかと感じる。また、別の話になるが、同じように取り組んでいる市町村で、成功しているところもあるかと思う。内部的なものになると思うが、競合、ベンチマークを定めることで、では茅野市の強みはどこか、というところが見えると戦略的にはわかりやすいのではないかと思う。色々な好事例が情報として入ってくるかと思うが、特に基本目標2の関係人口について、そこがうまくいっている市町村はその後人口が増えているということを鑑みると、茅野市は資産もあるし、場所も良いので、正直目標が低いのではないかと感じる。それだけのポテンシャルが茅野市にはある。</p>
	<p>委員</p> <p>すごく分かりやすくなっている。13ページの、10年後、20年後を見据えたAI・IoTの導入という記載があるが、AI・IoTを入れると仕事を奪う、とい</p>

うのは常識。色々な人を呼び込む前にそもそも職場が減ってしまっただけでは元も子もないのではないか。また3番目に高度なものづくり技術と～、という記載があるが、ものづくりの生産性をAI・IoTを入れることであげたい、というのはいくぶん分かるが、少し前に駒ヶ根市で行われたものづくりについての会議でIBMの方が、これからはモノではなくソフトだ、と言っていた。新しい技術で労働を奪われたときに、新たに出てくるのはソフトだと思う。そこで必要とされるのは高度な技術を持った人で、地域に新たな雇用が生まれにくい可能性がある。ものづくりだけにこだわっていないで、ソフト関係をなにかの形で作ってあげればもっと市が発展していくのではと感じている。一方、公共交通機関や交通インフラの整備を進めるのに予算はあるのか。今後はどこの市も取り組んでいかなければならない問題だが、全ての交通インフラを整備するだけの予算はないはず。ここをどうするのかを考えていかなければいけない。また、もっと売り出してよいのにと感じるのは、自然がよいというのはもちろんだが、夏が涼しいこと。今、元の場所（東京）に戻ったら夏が暑くてとてもいられないがここだと仕事ができる。夏だけのオフィスをここに作って、というのはいいのではないかと感じる。

委員

私は、多摩の学生ものづくりコンペティションの審査員をやっており、その中で多摩には諏訪や茅野から出ている学生が非常に多いと感じている。皆さんから話を聞いてみると、こちらに帰ってきたいが仕事がないから帰れないと言っている。では、多摩に就職しているのか、というとそうではなく、多摩地域の産業界の方からは、ソフト開発の会社における高度な人材が圧倒的に足りないと聞いている。コンペティションにも多摩のITものづくり企業の社長さんたちが来ており、生徒を取ろうと思っているが、みんな都心に行ってしまうとぼやいている。なぜなら、都心の方が給料が高く、そうすると多摩では働いてくれないから。先日、立川の商工会議所に呼ばれて意見交換をしてきたときの具体的な話として、圧倒的に高度人材が不足しているという話を聞いた。これから2030年にかけてますます不足してくる、というのが明らかに見えている。新しくなった計画を見たときに、上手くまとまっているなと感じたが、一方で、長野市の、北信の視点で考えているのではないかと感じている。ここの地理的な条件を考えたときに、付き合う相手を考え直したほうが良い。多摩エリアは人口420万人。大学だけで58校、学生は17万7000人。帰ってきたくても帰ってくるのができない人たちがたくさんいる。多摩市のGDPは18.8兆。これは長野県全土を合わせた数の倍以上。そんな人たちが茅野から1時間半のところにいる。立川にNECなどの企業が多くあるが、実は、東京のバックアップセンターは立川にある。そこにIT企業のバックアップセンターが集中している。高度人材を欲しているが、みんな都心へ行ってしまふ。もし茅野にビジネスセンター（会津若松にあるアクセントのビジネスセンターのようなもの）があったとして、茅野から多摩へ行った人たちを返してもらおうというか、奪還する方に頭を切り替えても良いのではないかと。そうすれば御柱などの面倒なこともよく分かっているし、子育ても周りで面倒を見てもらえる。そうした面倒なことをよくわかっている人たちを連れ帰ってくる、というプログラムに集中したほうが良い。ターゲットは400万人いる多摩の人。ここから長野市まで2時間かかるが、立川までなら1時間半で行くことができる。もう一度茅野の地政学的なところを見ながら、1時間半のところにいる420万人と、長野市にいる44万人。どちらと付き合ったらよいかをもう一回考えてみてはどうか。発想の転換が必

	<p>要なのではないか。いったい今まで何人出て行ったかを考えると、それを連れて帰ってくる職場環境づくりの方が手っ取り早いのではないかと最近では感じている。ソフトの人材が足りなくなるので、その集積地になるために理科大のポジションというものを見直しても良いのではないか。今は文科系の大学を出ていても高度人材にはなれる時代なので、もう一度大学院に入りなおして勉強して、という就業支援という形もあるのではないか。</p>
委員	<p>若者に「選ばれるまち」、ということでもわかりやすく、ある意味ではとんがったテーマで、私は非常に良いのではないかと感じた。7ページのフローについてだが、訪れたいまちから、知る、通う、移り住むという流れでいきますよ、という説明になっているが、これを介さずにダイレクトに移り住む人もいる。そこを立体的に表現した図にした方が全体像がわかりやすいのではないかと感じた。また、先ほどからも出ているが、数値について。現状値が書いてあるものと抜けているものがある。現状値が抜けているとなぜこの目標が出てきたのかが分からない。その他、長野県内でも伊那市などベンチマークとして良いところがある。お互いが切磋琢磨していく意味で、そういうところをターゲットにしながらそこを超えていくんだ、という、必ず達成する目標だけではなく、チャレンジングな目標を設定して、達成できなかったら達成できなかった、ということでも良いのではないかと思う。せっかく尖った内容になっているので、その方が良いのではないか。また、細かい部分だが、12ページの政策パッケージで、八ヶ岳の登山道整備という項目があるが、観光の施策では。立てつけの見直しをお願いしたい。13ページの10年後、20年後を見据えて、という文言があるが、変化の多い中でどうやってここまで先を見据えていくのか、というのは素朴な疑問。</p>
委員	<p>登山道は、観光のほうが良いのでは。市内の集団登山でも使ってもらっているので、できるだけ安全に整備は続けていただきたい。地元の若い子どもにも市の良さをもっと知ってもらいたい。そういった教育がもっと入ってきて良いのではないかと思う。もっと茅野市を理解して、出ていっても帰ってきたくなるような市の魅力を子ども達に教えていってあげられればと思う。</p>
委員	<p>本日の資料は流れがわかりやすかったと思う。少し戻るが、Uターンに向けての小中高生の話について。私も2年前にUターンをしてきて、その時の決め手だったのが、父の関係で青年会議所や諏訪圏 JC などのネットワークがある程度わかっていたから安心して帰ってこれた。ちょうどその時にジュニア世代が帰ってきていたのもあり、帰ってくれば誰かしら助けてくれるだろうと思っていた。小さいときに青年会議所やどんぼんなど、父たちが楽しくやっているのを見ていた。例えば、小中高校生の抱え込みについて、7ページにある横断的施策の中に、多様な学び場の提供について記載されているが、これは目標4だけではなく、シティプロモーションのところから若い世代のところまですべての目標に関わっているのではないか。仕事が見つからない、という話もあったが、仲間内に聞くと仕事はある。その情報の伝わりやすさはあるので、ちょっと地元の人に聞けるパイプがあれば、Uターンしたい人も情報を得ることができると思う。多様な学び場の提供のところから入口から出口まで関われる関係があって、小中高校生が私たち世代と関係性が持てて、誰々のお父さんに話聞くと帰ってくるきっかけになるよ、というような関係性が築ければ良いのではないかと思う。</p>

委員	<p>泉野の大日影にずっと住んでいる。大日影というと、昔は日の当たらないところと思われていたが、とても日の当たる場所。最近では若い人たちが周囲に増えてきた。一時は小学生が0になるのではと思われていたが、最近では、10 何人というところまであっという間に増えた。この間のどんど焼きのときにも驚くほど子どもたちがたくさんいた。小学生がたくさんいる、ということは若いお父さん、お母さんがいっぱいいるということ。そういう人たちもだんだん年を取っていくと市に対する要望もいろいろ変わっていく。何10年か先には定年退職をして、病院、診療所等でお世話になるような年になり、介護も必要になる。それぞれの年代で市に期待するものも変化が出てくる。今回の資料では、若者に「選ばれるまち」づくり、ということでまとめているが、全般通して様々な世代の様々な要望がうまくまとめられていると感じた。ぜひこれを骨にして立派な肉をつけていただければと思う。茅野市も決してお金がある市ではない。ここにあることをすべてやっているとお金がいくらあっても足りないのではないかと感じる。市役所と市民が知恵を絞って実現していければ。</p>
委員	<p>私もかつて採用に近いセクションにいたこともあり、若い人と話す機会があった。その時に、諏訪はものづくりが盛んな地域というイメージが学生も持っていて、諏訪地域の企業が求めているのは理系の学生だ、という勝手な思い込みをしていた。文系の学生が諏訪で就職する際に思いつくのは市役所くらいだと言っていた。ものづくりの他にも色々書いてあるが、文系の学生でも就職できる機会がある、ということを強調して書いた方がより効果が大きいのではないか。</p>
市長	<p>確かにこのあたりの企業の募集要項を見ると技術職しか書いていない。営業もまれに書いてあることがあるが、その辺にも問題があるかと感じている。</p>
委員	<p>学生の就職の状況について、この地域でも就職の相談会や面接会を開催している中で、年々参加する学生が減っている。首都圏の方が仕事が多く、学生は皆首都圏に行く。大学の近くのところで大手の企業相手に就職活動をする学生が多い。そうすると、地元で面接会を開催しても参加者が集まらない、開催する前に首都圏で就職先が決まってしまうという傾向がある。参加者を集めることに対して苦勞をしている。諏訪地域には製造関係の会社が多いので、技術職を募集、ということも多い。一方で、学生は営業を避けたりすることも多く、マッチングがうまくいかない。資料はうまくまとまっていると思うが、働く人を呼び込んでいくというのは難しいと感じている。魅力の伝え方というものも色々な提案があったとおり、他の地域の学生との連携も考えて情報発信する機会を作っていくことで、少しずつ成果が出るのではないと思う。</p>
委員	<p>今回、若者に「選ばれるまち」という基本的な考え方が示されて、基本目標が1～5まで設定されて、各施策が詳細に書かれているのでかなりイメージが湧くようになった。若者が定着するためには仕事は欠かせない。コワーキングスペースを活用した新たな雇用の創出、という内容が書いてある。先ほどIT人材を連れてくることは可能、というお話はあったが、コワーキングスペースを活用して雇用を創出するのはかなり難しい。場所があるだけでは</p>

<p>委員</p>	<p>雇用は生み出せない。各論になってしまうが、ここに起業や就業を促すと書いてあるものの、具体的にどうやって IT の仕事を作りだしていくのか疑問。</p> <p>若者に「選ばれるまち」ということで、私は元々茅野市の上の方の人間だが、若い頃から見ていると、地域の大人の皆さんの役が多すぎた。それによって若者が息子には苦勞させたくない、という気持ちが非常に強く、都会に出ていってしまう、という人が非常に多いのではないか。それをまた戻す中で、働く場所がないという問題がある。能力はあるが、それに見合った仕事がないというのが現実ではないかと思う。もう一点が、基本目標 3 の農業関係について、都会に行った方に対して、新たな就農を進めていただいているとのことだが、引き続き進めていただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>まず全然身寄り（地縁）がない中で子どもを産む、という事は非常に心細いと思う。実家制度のようなファミリーサポートがあるのは良い。この計画の中には色々な相談事業や講座が書いてあるが、ここに夫婦で参加したり、子どもの悩みがあったら相談に行ける、というのは自分の頃にはなかったこと。全然時代が違う。そういうところに行ったら、同じ悩みを持った方がいるのでお友達もできる。ぜひそういうところに参加していただければと思う。あまり参加者は多くないと聞いているのもっと利用していただければよいと感じる。今、技術者というか IT 系などのソフトを組んだり、という人が求められているのは分かるが、そうではなくて、介護や農業などの色々な人が必要になってくる。先ほどの関係人口についても、どうやって関係人口を作っていこうかという具体的な政策で、私たちのやっている体験住宅というものがある。おかげさまで好評いただいているが、利用者は 30 代、40 代の人が多い。ほとんどの方が賃貸で来て、仕事を見つけて、茅野市を良く知って、という方。関係人口の方たちもただ遊びに来て、というだけではなく、観光で働いてみようか、とか、農業で働いてみようか、という形で、そこで宿泊もしながら、仕事もしながらインターンのようなことをしながら暮らせるような制度があればよいと思う。最後に全然違うことを。自然環境が良くて茅野に来る、安心、安全で災害が少ないから茅野に来る。今これだけ気候が変動している中で茅野市としては環境に対して何をするか。できれば相続をしていない山林が今もあるし、これからどんどん出てくる。それを市有林にすることはできないのかとお願いしたい。山林を持っていても固定資産税を生まない。いらないよ、という人は市に寄付できるという事にすれば、個人で持っている里山みたいなところの山林整備を進めることによって、茅野市は環境に対して積極的に取り組み、さらに安心、安全に災害にも強いまちを作れるし、水もきれいになるし、というのを持続的にやっていければすごく良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>実際にやった事例があり、狭山丘陵にあるトトロの森というところ。クラウドファンディングでその土地を買い取って整備している。今はほとんど植林によって杉が植えられているところを、ブナとか本来の植生に戻すというトラスト運動をやっている。狭山は宅地になるような場所を守るためにやったので相当お金はかかったと聞いているが、逆に価値を産んでいない山林の所有者に安く買い取ります、とお金でやり取りしてしまった方がよいのでは。お金でしか人の心は動かないと思っているが、素晴らしいシティブロモーションになるので、研究する価値はある。そこに植栽しに来てくれる人とかが</p>

市長

出て来てくれると思うので、PR 効果は大きい。真剣に考えてみてはどうか。

全体の作りこみに関しては良いのではないかと、というご意見をいただいたと思うが、目標値の設定や見せ方に工夫が必要だろう、というご意見をいただきましたので、反映させた上で次回ご提示したいと思う。

(その他)